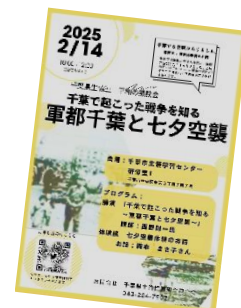




平和の懇談会 千葉で起こった戦争を知る 「軍都千葉と七夕空襲」を開催しました！

2月14日（金）、千葉市生涯学習センター研修室において『平和の懇談会 千葉で起こった戦争を知る「軍都千葉と七夕空襲」』を開催し、後日配信希望の方を含め32名のお申込みがあり、当日は会場20名、オンライン5名の参加がありました。



はじめに千葉県生協連の尼崎専務理事より「千葉県内の生協が平和とより良いくらしの実現のため様々な平和活動に取り組んできたこと、そして戦後80年となる本年は、さらに一層平和への取り組みを皆様と一緒に取り組んでいきたい」と、挨拶がありました。

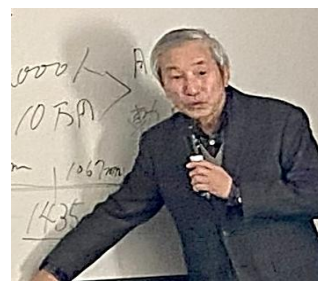
講演 「軍都千葉と七夕空襲」

講師 NPO 法人郷土ちばに学び親しむ会

副理事長 西野 則一 さん

日露戦争後の軍備拡張に伴い、当時の千葉町の町長が先頭に立って誘致運動をおこない明治40年（1907年）に鉄道連隊など3つの連隊が千葉に進出を決めました。

軍の施設を誘致した理由の一つは経済です。連隊は約2000人で構成されているため地域にお金が落ちます。これ以後、千葉町は軍都として様々な施設が置かれるようになります。（千葉町は1921年の市制施行により千葉市となる）。特に鉄道関連の施設は多く、鉄道敷設訓練、材料保管、組み立て工場、また日本唯一の 気球連帯など千葉市椿森を中心に11の軍事施設が置かれました。1944年当時千葉市面積のうち54%の46.2km²を占めました。またこのほか、日立航空機などの工場もありました。1945年の七夕空襲の前の6月10日にはこの工場をを目標とするB29の爆弾による空襲がありました。この空襲では工場に隣接する市町村に大きな被害がありました。



西野則一さん



7月7日の夜中には、焼夷弾による空襲がありました。郊外から中心部に向かっての空襲のため、人々は外に逃げるができず、中心市街地の大部分を焼き尽くしました。

「七夕空襲体験談」

お 話 岡本 まさ子さん

私は都賀駅近くの源町に、祖父、両親、弟妹の6人で住んでいました。家は農家で、空襲当時は国民学校5年生（10歳）でした。1945年当時は敵機の襲来が昼夜を問わずありいつもおびえていました。七夕空襲の夜は夜中に空襲警報が鳴り、庭の防空壕に逃げました。しばらくして祖父の「大変だ」という声で外に出ると、さっきまで自分たちが寝ていた家が燃えていました。家族全員ただ茫然と見ているだけでした。暗い空からは焼夷爆弾についているリボンのような布に火がついて暗闇の中からひらひらと雨あられのように落ちてきます。遠くに見える千葉の町の空は赤く染まっていました。弟は、「教科書が焼けちゃった。学校に行かれない」とずっと泣いていました。夜が明けると、焼け落ちた母屋の中から空の焼夷弾が2発見つかりました。学校も半分焼けて授業は外や、気球連隊の焼け残った格納庫の中でおこないました。この空襲で、焼夷弾が直撃したお友達の妹や、若い先生が亡くなりました。



岡本まさ子さん

今私はピーススタッフとして子どもたちや若い先生にお話をしています。私たちは豊かな生活を享受していることを意識していないと思います。しかし戦争がひとたび始まれば一夜にしてなくなります。これが戦争の現実です。これはあつてはならない事です。どうしたら地球の人々が幸せに暮らすことができるか考えることが大切です。戦争は始めたら止められません。いつも心の中のどこかに平和って素晴らしいことを思っていてください。

参加者アンケート （一部抜粋）

- ・戦後80年をあらためて考える機会となった。
- ・平和で豊か これが「当たり前」ではない事に気づくきっかけになった。
- ・岡本さんの「戦争は始めたら止められない」という言葉から「始めないようにするにはどうしたらいいか」考えていきたい
- ・自分の住んでいる千葉で起きた空襲の体験をお聞きし、あらためて戦争のむなしさ、愚かさを感じた。
- ・千葉市だけでなく、千葉県の戦前戦中を知りたい。
- ・西野さんから千葉の地で、「なぜ」「何が」を詳しく聞いたので実際の戦跡、遺構を見てみたい
- ・実体験の話をお聞きするのは重く大きく響く。
- ・体験談を聞くなかで、自分の今の生活が80年前のことが起きたらと、自分事として考えることができた。
- ・言葉でしか知らなかった戦争に関わる用語の説明を聞き、用途や意味がわかった。千葉にこんなに軍関係の施設があったとは知らず、驚いた。
- ・東京大空襲や、広島、長崎の被爆などに目がいきがちですが、地元の事も知って、身近な人の上に戦争は不幸をもたらすことをあらためて感じた。